

# 日中継子譚の一モチーフ：「継子と炒り豆」を中心に

著者	繁原 央
雑誌名	名古屋学院大学論集 言語・文化篇
巻	26
号	2
ページ	1-16
発行年	2015-03-31
URL	<a href="http://doi.org/10.15012/00000430">http://doi.org/10.15012/00000430</a>

〔論文〕

## 日中継子譚の一モチーフ

——「継子と炒り豆」を中心に——

繁 原 央

常葉大学短期大学部名誉教授

### 要 旨

昔話研究はアンティ・アールネ、スティス・トンプソン以来、タイプ（話型）研究を柱に展開されてきたように思う。その後モチーフにも注目されるようになったが、十分とはいえない。ここでとりあげる「継子と炒り豆」は日本ではもっぱら継子譚の発端部分で語られるが、中国では小鳥前生譚の一話型として語られている。その語り方は細部まで共通しており、広い中国でここまで似た語り方がされるのは注目に値する。モチーフがユニークであるほど、タイプを超えていろいろな話に取り込まれてゆく一例といえようが、国によって別の話に取り込まれて伝承しているのは、どうしてだろうか。本稿は資料提供の段階ではあるが、問題提示とする。

キーワード：継子譚，小鳥前生譚，継子と炒り豆，モチーフ研究

## A Motif of Stepchild Story in Japan and China

——“Stepchild and Roastbean”——

Hiroshi SHIGEYARA

Tokoha University Junior College Professor Emeritus

---

発行日 2015年3月31日

## 1. 「継子と肝取り」

西脇隆夫先生編『モンゴル説話集 シッディ・クール』の第五話「ナランゲレルトとその弟」の発端部分は、継子譚である<sup>1)</sup>。

1. ホタラ・ゲゲン汗という王にナランゲレルト（日光）という王子がいたが、後妻の妃にサランゲレルト（月光）という王子ができ、妃は先妻の子のナランゲレルトを殺そうと思うようになる。
2. ある日、後妃は王に病気のふりをして、王子の心臓を食べないとこの病気は治らないという。王はナランゲレルトを殺すことにした。これをサランゲレルトが盗み聞きして、兄に知らせ、二人は寺の僧に相談し、食料を用意してもらい逃げる。

これは、日本の昔話では「継子の肝取り」型に分類される話型の発端に該当する。それを稲田浩二『日本昔話通観』でみると、180にある<sup>2)</sup>。

- ①継母が夫に病気といつわり継子の肝を薬にと求めるので、夫は僧に相談する。
- ②僧の助言で犬の肝を持ち帰ると、継母は食べるふりをして捨てる。
- ③継母が継子の行方を捜すので、僧は継子を名馬に乗せて旅立たせる。
- ④継子は鳥に生まれ変わった亡母と会い、その教えを守って他郷で幸せに暮らす。

と整理しており、資料として山形、福島、新潟、兵庫、広島、徳島、鹿児島、沖縄の各県をあげてあり、それなりの伝承の広がりがあったといえる。

両者は心臓と肝の違いはあるにせよ、継母が継子の内臓を薬にするという理由で殺そうとする点で一致する。このように話の全体が共通していなくても部分的に一致する例は枚挙にいとまないが、この例のようにモンゴルと日本の間で似ていても、その関係を後づけることは難しい。この類話が中国の漢族の中に見当たらないからである。本稿では継子譚の別のモチーフをとりあげて、日本と中国の伝承の有り方を探してみたい。

## 2. 日本の継子譚

日本の継子話は驚くばかりの量がある。なぜこのように多く、また広く伝承されているのだろうか。まず物語作品としては古く平安時代の落窪物語、鎌倉時代の擬古物語である住吉物語があり、御伽草子に鉢かづき、月日の本地などがある。

昔話にいたっては、稲田浩二『日本昔話通観』(通観と略称)に継子話として三十三の項目がある。継子譚の全容をみるため、関敬吾『日本昔話大成』(大成と略称)の継子譚と突き合わせてみよう<sup>3)</sup>。

- 172 継子の木の実拾い—日本中に分布 大成二一二栗拾い
- 173 継子の水汲み—十県に分布 大成なし
- 174 米福栗福—日本中に分布 大成二〇五A
- 175 皿皿山—日本中に分布 大成二〇六

- 176 姥皮—日本中に分布 大成二〇九  
177 鉢かつぎ—十一県にある 大成二一〇  
178 手なし娘—日本中に分布 大成二〇八  
179 白鳥の兄たち—三県にある 大成二一四七羽の白鳥, 二一五白鳥の姉  
180 継子の肝取り—八県にある 大成なし  
181 灰坊—ほぼ日本中に分布 大成二一一  
182 継子の井戸掘り—五県にある 大成二二〇A, 二二〇B 継子と井戸  
183 継子と王位—山形県と沖縄県にある 大成なし  
184 継子と弁当—四県にある 大成なし  
185 継子捨て—十県にある 大成なし  
186 日増さり川—長野県にある 大成なし  
187 人形の身替わり—京都府と岡山県などにある 大成なし  
188 おぎんこぎん—日本中に分布 大成二〇七  
189 俊徳丸—十三県にある 大成なし  
190 継子の兄弟—鹿児島県にある 大成なし  
191 継子と二葉草—六県にある 大成なし  
192 継子のいちご取り—十二県にある 大成二一三 継子の苺拾い  
193 継子と炒り豆—十七県にある 大成なし  
194 継子と二十日月—沖縄県にある 大成なし  
195 米埋め 糲埋め—日本中にある 大成二〇五B 米埋 糠埋  
196 継子の谷落とし—六県にある 大成なし  
197 継子と土舟—二県にある 大成なし  
198 継子と味噌炊き—日本中に分布 大成二一九 継子の釜茹  
199 継子の蛇責め—七県にある 大成二二一  
200 継子の生還—三県にある 大成なし  
201 烏手紙—十二県にある 大成なし  
202 継母の化け物—日本中に分布 大成なし  
203 継子の麦搗き—沖縄県にある 大成なし  
204 継子と亡母—鹿児島県, 沖縄県にある 大成なし
- 大成にあって通観にない項目は次のとおり。

二一六 継子と鳥—日本中に分布

二一七 継子と笛—日本中に分布

二一八 歌い骸骨—八県にある 日本霊異記や今昔物語集にある話

二二二 継子と魚—十三県にある

関敬吾の大成がある程度広く分布しているものを項目として立てているのに対して、稲田浩二の通観は採集例が少なくても独自な内容のものは一つの話型に採用していることがわかる。それ

は大成が昭和五十三年刊行に対して、通観は昭和六十三年刊行という十年の差があり、その間の昔話が採集された量の違いが背景にあったかもしれない。

### 3. 中国の継子譚

中国の昔話（民間故事）の採集は、1984年から中国全土を対象に県単位の採集（内部資料として四千冊以上まとめられた）が行われ、それをもとに省単位で三十巻（上下冊出した省が四川、新疆、雲南にあるので33冊）の叢書『中国民間故事集成』が2008年完成した。その中から継子譚を探してみると、意外に少ない。以下の十二話がある<sup>4)</sup>。

1. 『新疆巻』下「630後娘的故事」（錫伯族 察布查爾錫伯自治県）回憶記錄者＝善吉，男，1927年生，錫伯族，察布查爾錫伯自治県人，新疆人民出版社編輯。翻譯者＝金炳哲。1989年烏魯木齊市にて採録。1161～1164頁  
シボ族。
2. 『新疆巻』下「827継母」（柯尔克孜族 烏什県）講述者＝闊确尔巴依・居努斯，男，50歳，柯尔克孜族，烏什県人。採録者＝努尔卡里・依薩克。翻譯者＝賽娜・艾斯别克。1990年烏什県にて採録。1742～1743頁  
キルギス族。日本の「172継子の木の実拾い」の類話だが，穴のあいた袋をもたせるモチーフはない。
3. 『青海巻』「421後娘」（撒拉族 循化県）講述者＝馬索牙，女，撒拉族，45歳，農民。採録者＝馬秀蘭。1987年6月循化撒拉族自治县白庄郷にて採録。807～808頁  
サラール族。
4. 『青海巻』「後娘悔過」（撒拉族 循化県）講述者＝賽里真買，女，撒拉族，71歳，農民，不識字。採録者＝劉鳳蘭。1988年1月循化撒拉族自治县積石鎮草灘霸村。809～810頁  
サラール族。継子を放羊に行かせ，狼に食べさせようとするが，白髭の爺さんに助けられる。
5. 『黑竜江巻』「248後老婆針」（七台河市）講述者＝張玉素，女，83歳，勃利県勃利鎮新華街農民，小学。採録者＝吳琦，女，41歳，七台河市文聯幹部，大学。1987年10月七台河市桃山区にて採録。502～503頁  
継子の頭に釘を打って殺す。呂洞賓が生き返らす。
6. 『内蒙古巻』「420後娘的故事」（蒙古族）講述者＝嘎畢亜図。採録者＝郭永明。奈曼旗にて採録。935～940頁。  
モンゴル族。
7. 『吉林巻』「118後老婆哨」（集安市）講述者＝張学荣，女，70歳，漢族，集安県麻錢沟，家事，不識字。採録者＝韓吉泉，男，36歳，漢族，農民，中学卒業。採録時間＝1986年。採録地点＝集安県。188～189頁
8. 『陝西巻』「414後娘害先房」（咸陽市）講述者＝杜清海，男，59歳，咸陽市渭城区周陵郷，農民，小学。採録者＝崔輝文，男，26歳，咸陽市渭城区周陵郷文化站，幹部，高中。採録

時間＝1989年。採録地点＝咸陽市渭城区周陵郷文化站。464～465頁

山に牛の放牧に行かせて殺そうとする。神仙が助ける。

9. 『四川卷』下、「845後娘的心腸」（理県）講述者＝余光林，男，40歳，羌族，教師，高中。  
採録者＝阿霸民間文学採風隊。採集時間，地点＝1987年9月15日，理県木卡郷立力寨。

1201～1203頁

羌族。姉妹を山の中に置き去りにする。山中に兄弟がいて結婚する。

10. 『河南卷』「422後娘」（漯河市）講述者＝王順堯，男，49歳，漯河市醬菜廠工人，不識字。  
採録者＝陳麗雅，女，29歳，西平県文化館幹部，中専。1985年2月に漯河市醬菜廠にて採録。

530～531頁

継母が鼠取りをご飯に入れて殺そうとする。弟が助け，継子の兄は逃げて雜貨店を開く。継母たちは乞食となる。

11. 『江西卷』「427後娘悔過」（樟樹市）講述者＝龔汝廉，男，64歳，樟樹市大橋郷龔家村退職教師，高中。採録者＝謝信而。1987年7月15日に龔汝廉の家で採録。687～688頁

継母が継子を虐待する。

12. 『海南卷』「233後母変水蜞」（黎族・楽東県）採録者＝中南民族学院調査組。1954年に楽東県福汶郷福報村にて採録。278頁

リー族。継子を生き埋めにして殺そうとする。犬が吠えて助かる。継母はカニになる。

この十二の資料だけだと中の七種の資料が少数民族の伝承なのが注目されるが，いくら何でも漢族のものが少なすぎよう。エバーハルトの「Typen Chinesischer Volksmärchen」<sup>5)</sup>には「32，灰姑娘」というシンデレラ型の話型をたて，十一の資料をあげているから，継子譚がもっとあっていいはずである。省単位の民間故事ではどうしても大雑把なものになり，相当数の話型をおとしてしまったのではなかろうか。ちなみに丁乃通『中国民間故事類型索引』<sup>6)</sup>は「510A灰姑娘」として二十一の資料をあげる。

2005年に白庚勝氏が中国民間文芸家協会を中心に，集成のときの県単位で採集した民間故事を整理しなおして「中国民間故事全書」として刊行しよう提言した<sup>7)</sup>。平成二十六年までに一五八巻が刊行されている。三千巻の叢書になる予定とのことで，これが完成すれば，中国の県単位の民間故事の分布が明らかになるだろう。

#### 4. 「継子と炒り豆」と小鳥前生譚

ここでは通観に「193継子と炒り豆」と分類された継子譚に含まれる一モチーフにこだわってみたい。それは，

1. 継母が継子に炒り豆を，実子になま豆をまかせるが，芽生えた炒り豆の一粒がみるまに大木となる。

2. その豆の木から莫大な豆がとれ，幹は太鼓の胴として寺宝となる。

というもので，伝承地は青森，岩手，宮城，山形，福島，群馬，埼玉，新潟，石川，富山，福井，

長野、静岡、岐阜、滋賀、京都、大阪、奈良、兵庫、鳥取、佐賀、熊本で、ほぼ日本全国に分布するといってもよからう。ただ、関敬吾の大成には話型として採用されていない。採集箇所が増えたことが独立した話型となった理由だろうか。

継母の豆を炒ったものを継子に渡すといういじわるにもかかわらず、継子の蒔いた豆のうち一粒だけが生える。それが大木になり、たくさんの豆が採れたというのは昔話ならではの展開である。豆の幹を太鼓の胴にしたというのは、これもありえない展開で、太鼓の由来を語る由来伝説となっている。この伝承の中には継子譚でなく、姑と嫁の関係になっているものも多く、北陸のものは永平寺の伝説となり、各地の地名の由来譚でもある。

通観の研究篇1『日本昔話とモンゴロイド昔話の比較記述』に、類話として中国の漢族のもの二例、台湾の漢族のもの一例、タイの一例の計四例をあげている<sup>8)</sup>。中国漢族にもあったわけで、中国民間故事全書の県巻の叢書が完成すれば、必ずや類話の分布が明確になるだろう。

ところで、タイの類話は次のようになっている<sup>9)</sup>。

1. 継母が継子を殺そうと実子には水に浸した種、継子には煮た種を与えて虎の住む森へ植えにいかせ、「芽が出るまで帰るな」と言いつける。
2. 実子は、継子の種のほうが大きいのを見て取り替えてもらい、二人は種をまく。
3. 兄のほうの芽がでたので弟を残して家に帰ると、継母は驚いてわけを尋ね、「弟を捜してこい」と兄を追い出す。
4. 弟は虎に食われ、兄も弟を捜すうちに食われた。弟はオニカッコウ鳥になり、兄を求めて「コーウェーイ」と鳴く。(カーラシン県)

この発端部分は「継子と炒り豆」であるが、最後は小鳥前生譚である。普通は小鳥前生譚に分類されるところだろう。

日本の昔話の動物昔話に通観では「動物前生」とする小鳥前生譚の話型がある<sup>10)</sup>。これも鳥になるものだけ題をあげてみよう。『日本昔話大成』は小鳥前生譚として十八の話型に分けている<sup>11)</sup>。

- 442 ほととぎすと兄弟—日本中に分布 大成四六時鳥と兄弟  
443 ほととぎすと靴—福島、徳島、佐賀県にある 大成なし  
444 ほととぎすと包丁—秋田、岩手、福島、石川県にある 大成五五時鳥と包丁  
445 ほととぎすと鍋—青森、岩手、宮城、秋田、広島県にある 大成五六時鳥と小鍋 菅江真澄「はしはの若葉」、袋草紙  
446 馬追鳥—青森、岩手、宮城、秋田、島根県にある 大成五二馬追鳥  
447 山鳩と継子—四県にある 大成なし  
448 ほととぎすと数—三県にある 大成五七時鳥と計算  
449 片足脚絆—二十県に分布 大成五八  
450 子捜し鳥—十五県に分布 大成五九よしとく鳥  
451 親捜し鳥—十一県に分布 大成なし  
452 夫鳥—四県に分布 大成六〇

- 453 鳥と狩人の娘—五県にある 大成六一狩人と犬  
454 雀孝行—日本中に分布 大成四七A  
456 かっこう不孝—十一県にある 大成四九郭公と母子  
457 山鳩不孝—六県にある 大成五一  
459A 水乞い鳥 不孝娘型—九県にある 大成五〇A 水乞鳥  
459B 水乞い鳥 馬飼い型—四県に分布 大成五〇B 水乞鳥  
460 ほととぎすと作男—岡山, 鹿児島県にある 大成なし  
461 でしこし鳥—二県にある 大成なし  
462 よしきりとぞうり—九県にある 大成五行々子と草履  
463 かっこうと姫—青森, 山形, 奈良県にある 大成なし  
464 はいはい鳥と母子—五県にある 大成なし  
465 嫁鳥—三県にある 大成なし  
466 筒鳥—七県にある 大成なし

大成にあって通観にない話型

四七B 雀の粗忽—六県にある

四八 鶯不幸—日本中に分布

五四時鳥と継母—六県にある 菅江真澄「はしはの若葉」七七

小鳥前生譚は人が死んで、その魂が鳥になった話で、鳥の鳴き声を聞きなして、多くは春の農作業の時期をつけるとする。その点では日本も中国も一致する。

## 5. 中国の「継子と炒り豆」モチーフ

中国の継子譚の中の「継子と炒り豆」のモチーフを持つ話は今のところ見つけていない。しかし、継母継子の関係は中国でも語られる話であり、前述の小鳥前生譚の中に、このモチーフを見つけることができる<sup>12)</sup>。(各省のアルファベットは私的に付したもの)

### A 黒竜江省

1. 「布谷鳥的故事」講述者＝劉福仁（男，78歳，農民，上過私塾）。採集者＝谷殿和，周景双。  
採集地＝二井郷民楽村。成文時間＝1982年4月25日。……『肇州民間文学集成』黒竜江省肇州県民間文学集成編委会，1991年。302～303頁。  
継母が継子と実子に穀物を蒔くようにいい、継子には炒めたものを与える。実子が継子と交換して食べてしまい、苗が生えず南山で餓死して布谷鳥となり、谷一苦と哭く。

### B 吉林省

2. 「棒槌鳥の由来」講述者＝董志斌。搜集者＝付春。整理者＝付春，曲会。1986年に董志斌の家で搜集。舒蘭県東部に流传。……吉林省民間文学集成『舒蘭県卷』上，舒蘭県民間文学集成編委会編集。1988年3月刊。125～126頁。  
王剛と王林の兄弟がいて兄が山でいなくなり、弟が探しにゆき、見つからず鳥になって王剛



哥と鳴く。

#### E 河北省

3. 「姑姑虫的来歴」講述者＝王懷玉（男，82歳，文盲）。記録整理＝王勤海。1972年に正定県秦家庄にて採録。……中国民間文学集成・河北省『石家庄市故事卷』第一集，石家庄市民間文学三套集成編委会，1989年11月。中国民間文芸出版社。554～555頁。

兄嫁が小姑と自分の娘に豆を蒔かせ，芽がでないと帰るなという。小姑には煮たものを，娘には生の豆を渡すが途中で交換する。娘の芽は出ない。小姑の豆は芽がでたので帰る。娘は「姑姑待って」といい，餓死して鳥となる。この鳥を「姑姑虫」という。（継子譚ではない）

#### F 山西省

4. 「布谷鳥与鷓鴣怪子」講述者＝常玉蘭（72歳・景明村農民）。曲沃東南郷に流伝。採集者＝梁德榮（56歳・離休幹部）……『曲沃県民間文学三套集成』中国民間文学三套集成山西卷，同編集委員会，1987年，63～64頁。

紫金山の村。兄弟二人が継母に種を蒔けといわれ，種が生えず餓死して布谷鳥となる。

#### G 陝西省

5. 「小布与小果」搜集整理＝関世英。……中国民間文学集成陝西卷『太白県民間故事集成』太白県民間故事集成編委会，1990年6月。140～141頁。

継母が継子の小布と実子の小果に種を蒔くようにいい，継子には炒ったものを渡す。二人は交換して実子の種は芽が出ず，死んで布谷鳥となり，熟谷不出となく。

#### H 寧夏回族自治区

6. 「布谷鳥的故事」（漢族）講述者＝王文山。整理者＝王新軍。1986年に郊区大新郷で採集。……『銀川民間故事』上巻，中国民間故事集成寧夏分巻資料叢書，銀川市民間文学集成弁公室編印。141頁。

先妻の子の小布と後妻の子の小呆が種をまく。小呆の芽がでない。小呆は死に鳥となる。

#### N 安徽省

7. 「苦傲鳥的故事」講述者＝王長君。搜集整理＝王廷彦。……中国民間故事集成安徽卷『亳州伝説故事』亳州市民間文学集成編委会，1990年8月。222～225頁。舜の継子いじめの物語。種を蒔く話もあり継母が鳥になっている。

#### O 河南省

8. 「娘炒芝麻誰知道」口述者＝謝青奇。整理者＝李華強。……『丹江的伝説』中国民間故事集成河南浙川卷一，河南省浙川県民間文学集成編委会編，1987年，286～287頁。内部資料。継母が継子をいじめ，自分の子と一緒に芝麻を撒かせる。継子には炒った種を渡すが，実子には兄と種を交換する。実子の芝麻は生えず，死んで黒い小鳥となり鳴く。

9. 「谷鳥」講述者＝張樹標。搜集者＝張賀助……『朝歌民間故事』張長宏主編。河南鄭州市。中州古籍出版社出版。2000年4月。143～144頁。

兄弟が種を植えに行き，弟が死んで鳥となる話。

P 湖北省

10. 「鰲種鳥」商光春の記憶に基づく。搜集整理＝商光春。……『千鳥袍』十堰市民間伝説故事集（一），湖北省十堰市民間文芸研究会編，湖北省十堰市文学芸術界聯合会出版，1981年10月。180～181頁。

継母の王氏が継子の喜財をいじめ、芝麻の種を蒔きにやる。実子の逢生には生の種，継子は熟したものをわたし，芽がでないと帰るなという。逢生は虎に食われ，王氏が探しに行き毛のない鳥となる。

11. 「芝麻鳥」口述者＝成喜桂（41歳，初中，農業）。搜集整理＝陳世虎。龍港に流伝。1984年に搜集。……中国民間故事集成湖北卷『陽新県民間故事集』陽新県民間文学集成弁公室，陽新県文化館編。陽新県民間文学三套集成領導小組。1988年10月。320～322頁。

Q 湖南省

12. 「報母鳥」講述者＝張英（男，80歳，文盲，漢族，農民，大水田郷麻陽冲村）。搜集者＝羅芳（20歳，高中文化，漢族，教師，大水田郷麻陽冲村）。辰溪県大水田一帯に流伝するものを1986年5月に搜集。……中国民間故事集成湖南卷『懷化地区分卷』上冊。懷化地区民間文学三套集成弁公室。1989年10月。335頁。

後妻が継子をいじめ，後妻の子の王明が死後小鳥に変わり，鳴く。

13. 「包谷雀兒」講述者＝翟集方（66歳，男，漢族，文盲，鉄匠，沿溪郷爛泥湾村）。搜集者＝譚管業。1986年5月搜集。溆浦県沿溪郷に流伝。……中国民間故事集成湖南卷『懷化地区分卷』上冊。懷化地区民間文学三套集成弁公室。1989年10月。357頁。

継母が継子と実子に種を蒔き苗が生えないと帰るなという。実子の弟が死んで雀となり哥哥となく。

14. 「陽雀の来歴」もと懷化地区の『春』1983年6月第二期に載ったもの。講述者＝呉子江（男，40歳，高小文化，漢族）。搜集者＝呉子江。1983年4月搜集。懷化市に流伝。……中国民間故事集成湖南卷『懷化地区分卷』上冊。懷化地区民間文学三套集成弁公室。1989年10月。360～362頁。

陽雀を聡明鳥ともいう。陽雀は美少女だったが後妻が杜梅という娘をつれて継母となる。陽雀が後妻に殺され鳥となり鬼婦陽と鳴く。

15. 「肚餓鳥的伝説」講述者＝龔宗平（男，30歳，高中，漢族，文化輔導員，郭公坪郷政府）。搜集者＝龔宗平。麻陽県に流伝。……中国民間故事集成湖南卷『懷化地区分卷』上冊。懷化地区民間文学三套集成弁公室。1989年10月。365～366頁。

兄弟に油麻（麻陽の人は芝麻を油麻という）の種を蒔かせ，芽が出ないと帰るなと継母がいう。弟の種は芽が出ず，鳥になり腹が減ったとなく。

16. 「快哆包叶」搜集整理＝蒲冬菊（女，苗族）。新晃全境に流伝。……『民間文学資料』民間故事。湖南省新晃侗族自治県民委，文化局，文化館編。1986年5月。275～277頁。

なぜ鳥が包谷を植えよと鳴くか。同父異母の兄弟がいて，父が亡くなり母は継子をいじめ，兄弟に種を蒔かせ弟の種は芽が出ず，靈魂が鳥に変わって種を植えよとなく。

17. 「苦啊鳥的故事」講述者＝呉龍泉（男，漢族，70歳，私塾四年，玉華郷東塘村に住む）。記録整理＝阿遲。湘陰東郷に流伝。……中国民間文学集成湖南卷『湘陰県資料本』湘陰県民間故事三套集成弁公室，1990年10月。116～117頁。  
後妻が先妻の子をいじめ，実子には豆を継子には煮た豆を与え，植えよという。二人は肚が減ったので豆を食べ，継子の豆はおいしいが実子のはまずい。交換する。継子の兄のものは芽を出したが実子の弟のはでない。弟は小鳥に変わり鳴く。
18. 「黄豆鳥」講述者＝熊意徳（61歳，女，初小，漢族，農民，河田郷福冲村）。搜集整理＝陳恭森。河田郷に流伝。1986年11月搜集。……中国民間故事集成湖南卷『長沙県資料本』長沙県民間文学集成弁公室編，1987年9月。198～199頁。  
継母と継子，実子の話。継子をいじめ，豆を植えさせる。弟は死後に鳥となる。継母も死ぬ。
19. 「斑鳩的伝説」（常德県民間故事集資料本から選ぶ）講述者＝郭福廷（男，62歳，漢族，文盲，農民，常德県唐家鋪郷人）。搜集整理＝郭貴華（唐家鋪郷人）。唐家鋪郷に流伝。1986年8月搜集。……中国民間故事集成湖南卷『常德地区分巻』常德地区民間文学集成編委会編，1988年8月。276～277頁。  
娘を偏愛する母が嫁を嫌い，娘と嫁に豆をお湯と水につけたものに分けて，湯の方を嫁に水の方を娘にわたし蒔くようにいう。娘の姑は嫂と種豆を交換して蒔くと姑の種は生えない。老婆は娘を打つ。娘は自殺する。嫂も自殺してしまった。嫂の魂は灰色の斑鳩に変わる。（付記に，これと同じ主題の話は常德地区の各県市の民間故事資料本に数編ある。斑鳩の鳴き声によっているが，大部分は公婆が嫁を害するものか，あるいは後妻が先妻の子を害する。黄豆が麻芝に変わっているだけで共通の主題といえる，とある）（継子譚ではない）
20. 「錯過鳥」講述者＝雷炳朗（故人，男，初小，漢族，農民，永州市福田郷雷家亭村）。搜集整理＝雷光明。永州城郷に流伝。1977年搜集。……中国民間故事集成湖南卷『零陵地区分巻』上冊，零陵地区民間文学集成編委会編，1988年10月。468～469頁。  
兄は大牛，弟は二牛という兄弟がいた。弟は後妻の李氏が産んだ。ある時李氏が兄弟に芝麻の種を山に植えにいくという。二人は種を蒔く。兄が山をおり李氏に告げると李氏は誤ったことに気付く。弟は虎に食われ，李氏は死んで錯過鳥になった。
21. 「崽归来」講述者＝唐蘭秀（女，54歳，農民，初小文化，漢族，新田県三井郷三合村）。搜集整理＝蔣玉珊，宋任紅。新田県三井郷一帯に流伝。1986年11月搜集。……中国民間故事集成湖南卷『零陵地区分巻』上冊，零陵地区民間文学集成編委会編，1988年10月。471～472頁。  
湘南地方に子規鳥がいる。これは後妻が変わったものだ。兄弟に豆を植えさせ芽がでないと帰るなという。後妻の子の豆は芽が出ない。前妻の子は虎に食べられなかったが後妻の子は狼に食べられる。後妻は息子を探し鳥になった。
22. 「哥哥苦」講述者＝彭武棟（65歳，対山郷人，土家族，文盲，永順沢家）。搜集整理＝彭勃（男，土家族，永順県政協）。永順沢家に流伝。1962年12月搜集。……中国民間故事集成湖南卷『湘西土家族苗族自治州分巻』上冊，湘西土家族苗族自治州民間文学集成編委会，湘

西土家族苗族自治州民間文学集成弁公室，1989年8月。412～413頁。

斑鳩は妹が変わったもの。哥哥一苦と鳴く。後妻が兄と実子を山に芝麻を蒔きにやる。兄の芝麻の種は炒ったものだった。兄の種は生えないが実子の種は生えた。兄はたべものをももらえず、山で虎に食われて死ぬ。妹は兄を捜して鳥になって鳴く。

23. 「“哥哥苦”」講述者＝楊建宝（男，28歳，貫塘郷義母村農民，高中文化，この話は父母から聞いたとのこと）。搜集整理＝鄭曉紅（男，29歳，貫塘郷文化輔導員，高中文化）。1986年6月衡山県貫塘郷義母村にて採録。衡山県に流伝。……中国民間故事集成湖南卷『衡陽市分卷』衡陽市民間文学集成編委会，1989年10月。797～798頁。

南岳山に夜猫子鳥がいて哥哥苦と鳴く。後妻が先妻の子をいじめ、継子と実子に豆を渡し、蒔いて芽が出ないと帰るなという。二人は豆を交換したので煮た豆を実子が蒔いたが芽が出ず、虎に食われて、その靈魂が夜猫子という鳥に変わった。

24. 「“穹豆八哥” 的来历」口述者＝雷金鏐（女，20歳，初中，漢族，農民，華容県潘家壩場）。採録者＝劉瑞求（男，29歳，高中，漢族，華容県潘家郷文化專幹）。1987年3月に華容県三封郷にて採録。……中国民間故事集成湖南卷『岳陽市分卷』下，岳陽市民間文学集成編委会編，1990年9月。136～137頁。

先妻の子大心と後妻の子小心の兄弟が後妻から種を植えるようにいわれる。大心は植えて芽がでたので帰るが、小心は帰らない。後妻は悔悟して死ぬ。大心が田にいと小鳥が飛んで来て哥哥となく。

#### R 四川省（重慶市を含む）

25. 「桂桂陽」（貴貴陽ともいい，四川の雀）講述者＝張順益（男・60歳・農民・初小）。整理者＝王樹漢。1986年に成都市で採集。成都市に流伝。……『成都民間文学集成』成都民間文学集成編委会，四川人民出版社出版發行，1991年。922～924頁。

継母が兄弟に豆を植えさせ、生えない弟の桂陽は死に、兄の陽天が弟を探し、死んで鳥になり桂桂陽と鳴く。豆を植える時期である。（「この話は成都に広く流伝し，異文も多い。金牛区の葉方義は，桂陽鳥は母親が変わったものと語る。青白江区の黄富蓮の語る『陽雀的伝説』で桂陽鳥は後妻が変わったものといい，鳴き声も違う」と注がある）

26. 「陽雀為舍叫“米貴陽”」講述者＝童清禄。採集整理＝童清禄，杜国宗。龍溪郷に流伝。……『中国民間文学三套集成・四川省屏山県卷』屏山県文化館編印，1987年4月。91～92頁。  
先妻の子を陽雀，後妻の子を米貴陽という。後妻が芝麻を植えて，芽が出ないと帰ってくるなといい，炒った種を陽雀に，生の種を米貴陽にわたした。兄の陽雀は種を食べると弟がほしがり，弟の種と交換した。兄は芽が出たので家に帰る。後妻が米貴陽はどうしたか聞き，子を探しにゆく。陽雀は鳥に変わって弟を呼ぶ。芝麻を植えるころになると陽雀が「米貴陽」と鳴く。

27. 「陽雀的伝説」講述者＝黄富蓮（女，75歳，初小，人和郷陰峰村の農民）。採集者＝廖秀廷。整理＝葉濤。人和郷一帯に流伝。……『成都市青白江区卷』中国民間文学集成四川卷，青白江区民間文学集成弁公室選編，1988年12月の後記あり。167～168頁。

兄は前妻、弟は後妻の子。父が死に後妻が財産を独占しようと、二人に種を蒔きにやり、炒った種を兄に、生の種を弟に渡し、山に蒔いて芽がでないと帰るなという。兄は種の芽が生え家に帰るが、弟の種は芽が出ない。弟と種を交換したからだ。後妻は息子を探しに行く。死んで雀となり、山を飛び回って息子を探して鳴く。それから毎年包谷の種を蒔くころに、この雀が鳴く。人々はこれを陽雀と呼ぶ。

28. 「“貴貴陽” 是后媽变的」講述者＝常青和（男，58歳，万和郷先祖村の農民，小学文化）。採録者＝沈德其（男，33歳，万和郷文化専干，初中卒業）。1987年2月23日に万和文化站で採録。新津県に流伝。……『成都市新津県卷』中国民間文学集成四川卷，新津県民間文学集成編委会，1989年5月。149～150頁。

後妻が、先妻の子と自分の子の貴貴と一緒に生活していた。ある年、豆を植えよと、兄には炒った豆を、弟の貴貴には生の豆を与え、芽がでるまで家に帰るなという。兄が豆を食べると香ばしい。弟は豆を交換した。兄の生豆は芽を出したが、貴貴の炒った豆は出ない。兄が家に帰り、後妻は息子を探して「貴貴，貴貴」と呼んだ。後妻は鳥となった。人々は貴貴鳥と呼んだ。豆を植えるころ貴貴陽と鳴く声がきこえる。

29. 「杜鵑鳥的故事」講述者＝楊伯堯（女，49歳，漢族，農民，文盲，安県沸水郷の人，故人）。採集整理＝劉義福（男，49歳，漢族，教師，大專卒業，安県沸水郷の人）。1986年8月に採集。安県沸水郷に流伝。……『安県資料集』中国民間文学集成，安県民間文学三套集成編輯委員会，1987年12月。166～167頁

李桂福が小さい時母が死に父は後妻を迎え、弟の李桂陽が生まれた。兄弟は仲良く七、八歳になった時、父が病死した。後妻は財産を独占したいと思い、二つの籠に芝麻の種を準備し、山に行って種を蒔き、芽が出たら帰って来いといった。兄弟は種を持って出たが、途中で種を食べた。弟は兄の芝麻が香ばしいので籠を交換した。種を植え、兄の芝麻は芽が出たが、弟のは出ない。兄が家に帰ると母親は怒り弟を探しにいかせた。弟は虎に食べられていた。母親は後悔した。兄の芝麻は炒ってあったのだ。

## T 浙江省

30. 「苦娃鳥」講述者＝祝三因（女，71歳，文盲，海鹽県六里郷南山村農民）。記録整理＝李新培。1985年2月採録。……『嘉興市故事卷』浙江省民間文学集成，嘉興市民間文学集成弁公室編，浙江文艺出版社。杭州。1991年。308～310頁。

杭州湾北岸に鳥がいて、清明節が過ぎると飛んで来て「苦哇，クーアイ」と鳴く。昔、大工の妻が死んで山虎という息子が残された。山虎が七歳の年、大工は寡婦と結婚した。寡婦は水娃という名の男の子を連れていた。水娃の母親は心がねじけた人で、二つの青い瓜の種を用意し、一つは鍋で炒めておいた。炒めた包みを山虎に、別の包みを水娃に与え、種が芽を出さなかったら餓死しても帰るなという。二人は裏山に瓜の種を蒔きにゆき、途中、石の上で休んだ。山虎の瓜の種がいい匂いなので交換し、種を蒔いた。山虎の種は芽が出たが、水娃の種は芽が出ない。山虎は山を下り家に帰り継母に話した。継母は聞くと急いで裏山に走っていったが、遅く、水娃は餓死していた。母が泣いていると、突然、水娃の死体が見え



なくなり小鳥が飛んできて母の頭の上で鳴きだした。「苦しい、クーアイ」この鳥を苦娃鳥と呼ぶようになった。

## U 江西省

31. 「布谷鳥的伝説」講述者＝不明。搜集＝余国三。……『撫州地区民間文学集成』宜黄県卷，宜黄県民間文学集成弁公室編，1986年7月の序文。183～184頁。

後妻はずるく性格が悪い。先妻の子をいじめ、自分の息子に財産を独り占めさせようとしていた。ある日、後妻は胡麻の種を植えるよう二人に言った。兄には炒った胡麻を、自分の子には生の胡麻を与え、芽が出るまで帰るなという。弟は兄の袋の種がよい香りがするので、こっそり取り替えた。二人は種をまいたが、七日後に兄の芽は出たが、弟の胡麻は出ない。弟は家に帰れず逃げた。兄はあちこち探したが見つからず、帰って母に告げた。母は息子を探しにいったが、影も形もない。母は河に飛び込んで死んだ。夜啼鳥に変わり、春夏の種まきの時に「私が間違っていた、ウオーツォ」と鳴く。

32. 「棉花鳥的来歴」講述者＝不明。搜集整理＝馮軒基。……『新建県民間故事選』南昌民間文学叢書，新建県民間文学集成編委会，1986年。117頁。

南星地方に棉花という後妻がいた。自分の子の水童を可愛がり、前妻の子の金哥を殺そうと思った。ある日、二人を呼び棉花の籠を渡し、それぞれの土地に種を蒔き「芽が出るまで帰るな」といった。二人は種を蒔いた。兄の金哥の棉は芽を出したが、水童の種は一本も出なかった。後妻は金哥には炒った種を与えたのだが、水童が間違えて持って行ったのだ。水童は二度と帰らなかった。後妻は毎日喉が破れるほど叫んだ。後妻は死んで鳥に変わった。棉花鳥と呼ばれ「水童よ、はやく帰れ」と鳴く。

## V 福建省

33. 「豆鳥」講述者＝呉趕娘（女、すでに故人。整理者の母親）。搜集整理＝蔡子経（男、57歳，漢族，晋江柴塔村人，退休幹部，中専）。1988年に整理。泉州，晋江，南安農村に流伝。……『中国民間故事集成・福建卷，晋江分卷』（全二冊，上冊）晋江县民間文学集成編委会編，1991年。386～387頁。

継母が継子と実子に種を植えさせる。実子には生の豆を与え、継子には煮て日に晒した種を与え、芽が出たら家に帰っていいという。兄弟は山に豆を植えにいき、弟は兄の豆が煮てあるので、芽が出るわけがないと知り、豆を交換しようという。兄の豆は芽が出たので、家に帰った。継母は継子が帰ったのをみて、失敗したと分かり、急いで実子を探しに行った。実子は山を下りずにいたが、虎に食われてしまった。兄も山に登り弟を探した。山中を探したが見つからず、最後に自分も山野で死に、鳥と化して「弟よ」（ティーティ）と鳴いた。

## Y 広東省

34. 「烏豆鳥」講述者＝詹且。整理＝黄鎮盛。全国各地に流伝と書いてある。……『饒平民間故事集成』広東省饒平県民間文学集成弁公室編，林木杰・主編，1987年，54頁。

豆を蒔く時期に鳴くとし、小鳥になった二人の兄弟の名が兄は杜堅，継母の子の弟の名が杜宇（蜀の望帝と同じ名）になっているのが注意せられる。

35. 「烏豆烏」整理＝鄭儒新。……『潮陽民間故事』第二集，潮陽県文化局，文化館編，1985年，130～132頁。  
豆を生と煮たものを兄弟で蒔き，煮たものからは芽がでない。二人が虎に食われるところも共通する。
36. 「杜鵑鳥的伝説」講述者＝温保楼（男・60歳・高中・退休幹部・梅県城北鎮の人）。整理＝温国良（男・31歳・高中・電白県文化館幹部・梅県城北鎮の人）。1987年5月21日・整理。  
電白県の一部地区に流伝。……『茂名市資料本』中国民間故事集成広東巻，茂名市民間文学三套集成弁公室編，1988年の前言がある。152～155頁。  
二人の子供が死に，継母が杜鵑となる話。

## 2 広西壮族自治区

37. 「瓜哥烏」講述者＝黄桂芳。收集整理＝李福岸。博白県に流伝。1987年4月・収集。……『博白県民間故事集』中国民間文学三套集成。広西博白県民間文学三套集成弁公室編。1990年4月，170～171頁。  
昔，農夫の張付は妻が亡くなり，息子の張栄だけがいた。張付は後妻の林氏を娶った。妻の性格は狡猾で陰険だった。息子が生まれ大事にしたが，張栄はこきつかった。ある日，継子の張栄と自分の子に瓜を植えにゆき，芽が生えるまで家に帰るなといった。後妻は炒った瓜の種を張栄に渡し，別の袋に生の瓜の種を入れ，実子に渡した。途中で休んだとき，弟は兄の瓜を欲しがった。二人は種を交換した。種を植え，七日目に張栄の瓜が芽を出した。弟の種は芽を出さない。掘って見ると腐っていた。二人は家に帰らず，山で死んでしまった。後に，二羽の鳥となり，毎年二月，一羽が「瓜哥」と鳴くと，もう一羽が「瓜弟」と応じて，人間に瓜を蒔く季節を告げる。
38. 「包工包谷」講述者＝廖美参，女，37歳，壮族，高中，龍州県上降郷印山屯の人。農民。収集者＝黄紅梅，女，17歳，壮族，高中，龍州県上降郷印山屯，学生。……『龍州県故事集』（第一集）中国民間文学三套集成，龍州県三套集成編委会，農秀編。1987年11月。300～301頁。  
村に巧妹と金鳳という姉妹がいた。巧妹が二歳のときに母親が死に父親は後妻を娶って金鳳が生まれた。後妻は巧妹に対して悪意を持っていたが，金鳳と巧妹は親しかった。後妻は巧妹を殺そうと企んだ。種まきの季節に，姉妹を呼んで，煮た種を巧妹に，生の種を金鳳に渡し，種の芽が出るまで帰るなといった。いざ種を蒔くとき，金鳳は種の袋を間違えた。巧妹の種は発芽したが，金鳳の種は腐っていた。巧妹は先に家に帰った。後妻は巧妹が帰ってきたのを見て，田に行ってみると，金鳳は田で種が発芽するのを待つうちに餓死してしまい，鳥に変わった。春種まきのころになると，田に飛んできて，鳴く。「包工包谷，パオコンパオクー」と。
39. 「杜鵑花和杜鵑鳥」講述者＝陸阿姣，女，65歳，壮族，文盲，龍江区の人。講述者＝徐氏，女，67歳，文盲，雒容南慶郷の人。採集者＝熊芳，女，12歳，学生。採集者＝方慧萍，女，25歳，県教師進修学校学員。整理＝頼建耀，男，教師。整理＝黎耘，男，報社編輯。……『鹿寨県民間故事集』中国民間文学三套集成，広西壮族自治区鹿寨県三套集成編輯組編，1987年8月。

150～153頁。

映山紅は杜鵑花と呼ばれる。ある田舎に杜という姓の家があった。妻が死に娘の杜鵑が残された。父親は後妻の王氏を連れてきた。王氏は四歳の息子がいて、名を杜川と改めた。姉と弟は仲良くなった。後妻は自分の息子を大事にして、杜鵑をこきつかった。一年経って、父親は病気で亡くなった。王氏は杜鵑を殺害しようと思ったが、人の耳目があるので、計略を思いついた。袋に黄豆の種を入れて、姉と弟に二人で山に行き、黄豆を植えて発芽するまで帰るなという。二人は山に登った。姉の豆の種は香ばしいが、弟の豆の種は硬く青臭い。弟は豆の種を代えてもらい、種を蒔いた。すると姉の豆は発芽したが、弟の豆はみな腐っていた。後妻が豆の種を炒って杜鵑に与え、発芽しないようにしていたのだ。杜鵑は家に帰らずにいたが、山で亡くなった。杜川は姉を埋め、墓の前で泣き杜川も死んだ。後に杜鵑の墓から一本の樹が生え、小鳥が樹のまわりを飛びめぐり鳴いた。紅い血のような花が咲く木は杜鵑が変ったものだ。紅い花を杜鵑花という。鳥は杜川が変ったもので、杜鵑鳥と呼ぶ。毎年黄豆を植える季節になると、杜鵑鳥が飛んできて鳴き、しばらくすると杜鵑花が開く。

40. 「張貴楽」鳥の来歴」講述者＝李明英。收集整理＝周治忠。新坪郷に流伝。……『荔浦民間故事集』中国民間文学三套集成。荔浦県民間文学三套集成領導小組故事組編輯。1987年12月。110～112頁。

山の中で毎年春夏のころ、張貴楽という鳥が鳴きだす。昔、ある娘が張家に後妻に行った。後に男の子を産み、張貴楽と名付けた。先妻にも張貴時という子がいた。後妻は心中、貴時がいと貴楽の財産が半分になってしまうと思い、計略を考えた。二人を呼んで、山に行って芝麻（ごま）の種を植えよといい、貴時の種を炒めておいた。二人は歩いてゆくと、川に行きついた。洪水で水が漲っているので、貴時は「わたしが麻芝の種をもって川を渡ってやる」といい、二人の袋を持って川を渡った。山に行き芝麻種を蒔いた。やがて貴時の芝麻は芽を出したが、貴楽の種からは一本も出ないので不思議に思った。貴時は先に家に帰った。貴楽は一人残され、人食い虎に食べられてしまった。貴時が帰ると、後妻は驚いたが、川を渡るとき、間違えて種を入れ替えてしまったとわかった。後妻は慌てふためき、貴時を大声で罵った。貴時が芝麻を植えたところに行くと、貴楽の影も形もない。貴時は弟を懸命に探した。大声で「張貴楽、チャンクィロ」と呼んだ。貴時は弟を探して、山から山へ、声をあげて呼んだが、弟は見つからなかった。しばらくして山で餓死して小鳥になった。今も春になって芝麻を植えるころ、人々は「張貴楽チャンクィロ」と鳴く鳥の声を聞く。

## 6. まとめ

中国の「継子と炒り豆」は林蘭編『鳥的故事』の中に「四、肚餓與老二」「五、苦熬的杜鵑」「六、豆仔鳥」の三話を見つけることができ、よくしられている話である<sup>13)</sup>。日本の継子譚の発端の炒り豆モチーフが、中国では小鳥前生譚の継子いじめのモチーフとして広く語られている。

単純なモチーフはどこにでも使われる。使いやすいのだから、当然だということも言えるかも



しれないが、日本と中国で、ここまで截然とした語られ方をしていることは、何か意味があるように思われてならない。それぞれの国における好みとか、一時の流行があった名残とか、推測はできそうだが、まずは見事な両者の違いを確認しておく。

同じ口承文芸でも国による違いは当然あるので、中国の「炒り豆」の小鳥前生譚が日本に伝わり継子いじめ譚に流用されて語られるようになったというのも考えにくいし、話が変容したわけでもない。これは伝播論でかたづけられない問題ではなかろうか。

## 注

- 1) 西脇隆夫編『モンゴル説話集 シッディ・クール』2013年、溪水社、59～68頁
- 2) 稲田浩二『日本昔話通観』第28巻、1988年、同朋舎出版、313頁
- 3) 関敬吾『日本昔話大成』第5巻本格昔話四、十継子譚、昭和五三年、85～295頁
- 4) 鈴木健之編『中国民間故事集成』総目索引、2013年、私家版を参照
- 5) Wolfram Eberhard: Typen Chinesischer Volksmärchen (1937年、FFC120。『中国民間故事類型』王燕生、周祖生訳、1999年、商務印書館)
- 6) 丁乃通『中国民間故事類型索引』1978年。中国語訳1986年、中国民間文芸出版社。(2008年、華中師範大学出版社より再版)
- 7) 白庚勝「春天的故事—《中国民間故事全書》総序—」『民間文化論壇』2005年第5期。一五八冊(2014年時点既刊)全ての『中国民間故事全書』の巻頭に記す。
- 8) 稲田浩二『日本昔話通観』研究篇Ⅰ「日本昔話とモンゴロイド昔話の比較記述—」1993年、同朋舎出版、223頁
- 9) 吉川利治、赤木攻編訳『タイの昔話』世界民間文芸叢書、昭和五一年、三弥井書店、「一四オニカッコウ」62～65頁
- 10) 稲田浩二・前掲(2) 432～438頁
- 11) 関敬吾・前掲書、278～330頁
- 12) 拙稿「中国の小鳥前生譚(一)～(九)」『常葉学園短期大学紀要』第33号～第41号、2002～2010年の資料の中から「継子と炒り豆」のモチーフのある話をあげる。これは主として『中国民間故事集成』の県巻本から管見に入ったものを紹介した。
- 13) 林蘭編『鳥的故事』1928年、台湾の東方文化書局より中華民國六十年に復刻。12～27頁